

4. 職員研修

(1) 平成16年度公立大学協会図書館協議会研修会(京都府立医科大学)

主催 公立大学協会図書館協議会

担当 近畿地区(京都府立医科大学)

趣旨 公立大学図書館の当面する諸問題について研修を行い、図書館職員の知識能力の向上を図る。

日時 平成16年7月29日(木)及び7月30日(金)

会場 京都府立医科大学看護学舎及び附属図書館

テーマ 「変革期を迎えた公立大学図書館のあり方」

参加者 45大学 56名

日程

第1日 講演1 「大学統合と図書館組織の改編 - 主として神戸商科大学附属図書館の事例を中心に - 」

兵庫県立大学事務局神戸学園都市キャンパス事務部
学術情報課長 植川 章雄

講演2 「大阪市立大学学術情報総合センターにおける図書市民利用制度について」

大阪市立大学学術情報総合センター図書情報課
運用係長 橋野 みちよ

第2日 講演3 「教育・研究支援機関としての図書館の役割について」

大阪市立大学大学院創造都市研究科都市情報学専攻
教授 北 克一

報告 研修会の内容をとりまとめ、公立大学協会図書館協議会ホームページに掲載(予定)

研修会決算報告

収入 研修会予算 333,000円

支出 講師謝礼 50,000円

講師交通費 13,000円

報告書作成費 111,510円

消耗品費等 14,375円

手数料等 315円

合計 189,200円

残高 (返金額) 143,800円

(2) 大学図書館職員長期研修

平成 16 年度 大学図書館職員長期研修 参加報告

大阪府立看護大学附属図書館 大前富美

主催 筑波大学
共催 文部科学省
日時 平成 16 年 7 月 5 日(月)～7 月 16 日(金)
会場 独立行政法人国立オリンピック記念青少年センター
受講者 国立大学 33 名 大学共同機関 2 名 公立大学 1 名 私立大学 6 名 計 42 名

研修報告

<はじめに>

毎年行われている大学図書館職員長期研修(いわゆる長研)であるが、今回の平成 16 年度においてはいくつかの変更点があった。

まず期間が昨年までの 3 週間から 2 週間になったこと。受講対象資格のうち年齢区分が 36 歳以上 45 歳までと若干引き上げられたこと。会場が筑波大学での開催がなくなり、代々木のオリンピック記念青少年センターのみとなったこと、筑波大学の主催となり文部科学省は共催となったことなどである。これらも平成 16 年 4 月に始まった国立大学法人化の影響が一因なのだろうか。

期間が一週間短く設定されたことによる諸々の変更だと思うが、当初、個人的には 3 週間の心づもりで予定していたので、2 週間になったことで研修内容など残念に思ったが、参加してみて、また他の参加者との雑談のなかで「2 週間程度が適当なのではないか」という感想をもった。特に子育て期の女性職員にとっては、3 週間留守にするのはむずかしいけれど 2 週間なら何とか可能だと感じておられた方が多かったからである。

また、会場が代々木のみとなったのも残念ではあったが、オリンピック記念青少年センターの施設は、宿泊棟を含めとても快適に過ごすことができた。いろいろと心遣いくださった筑波大学の職員の皆様に感謝したい。

研修の内容は、昨年までと同様、1 コマ 90 分の講義を中心に、1 グループ 10 名程度に分かれての班別討議、全員での共同討議、見学という構成だった。

<講義>

講師陣は、文部科学省等の行政担当者、図書館学や情報学の研究者(大学図書館の利用者でもある)そして私たちにとっては先輩でもある大学図書館での豊富なキャリアをもつ実務者などであった。それぞれの立場や経験のなかから、大学図書館の運営を考える上で必要な最新の情報を 1 コマ 90 分という限られた時間のなかで、濃密に語ってくださった。私の知識不足などから全てを理解できたとは到底いえないが、これからの業務のなかで生かしていきたいと思う。

講義内容のテーマについては、大きくは昨年と変わってはいない。しかし国立大学の法人化後とい

うこともあり、以前にもまして効率化がもとめられているという状況での合理化の問題、その中で専門職としてのアイデンティティをどう保持していくのかといった点や、魅力のある図書館の前提となる情報提供という役割を果たす上で電子ジャーナルをどう確保していくかといった点など大学図書館をめぐる課題の多さと解決方法の難しさを感じさせられた。

< 共同討議 >

「大学図書館運営の在り方」と題したテーマが事前に提出課題となっており、それをもとに全体でディスカッションした。合理化をいかにすすめるかという内容のなかで、業務の外注（アウトソーシング）や職員の委託化、組織の再編など、各大学ですすすめられている実状の紹介が多くあった。

< 班別討議 >

テーマは「学術情報の収集・発信の企画」であった。各班 10 名程度にわかれて、2 週目は昼休みや講義終了後など、班ごとに集まり企画を練り具体的なプレゼン資料を作成して、最終日に報告した。デジタルレファレンス共同データベースの構築や 各大学機関の作成する資料をデジタル化したものを共同機関が窓口となってサイトを作成する企画などが報告された。

< 見学 >

今回のプログラムでは、見学先は 2 週目の 2 日目に予定されていた国立国会図書館のみであったが、国立情報学研究所のご厚意で、同所の見学会と懇親会が 2 週目の 3 日目の講義終了後もたれた。

国立国会図書館では、関西館のオープン以降、変化する NDL のサービス内容と今後の展望についての講義のあと、資料保存の現場での作業を見学させていただいた。

国立情報学研究所では、NII の提供する学術コンテンツサービスのなかでも学術機関デポジトリについてのショートレクチャーもあった。そしてその後の懇親会では、NII の職員のかたとフランクに、今年から始められた ILL の相殺制度についての要望など意見交換することができた。とてもいい機会を作ってくださったと感謝している。

< おわりに >

過ぎてみると、あっという間に過ぎてしまった夢のような 2 週間だった。研修会でもその後の交流会（？）も日頃接する機会のない国立大学や私立大学の方たちと、いろいろなことを（公私にわたり）話し合った濃密な時間だった。このネットワークをこれからの業務のなかでいかせるようにしたいと思う。

最後に、このような機会を与えてくださった公立大学図書館協議会に対して、また法人化前の多忙な時期に送り出してくれた職場の上司、同僚の皆様に御礼を述べたいと思う。